

九州統一評価票の実現に向けての取り組み

相浦 雅子 高濱 正文 小野貴美子 谷川 友美

The Initiative towards Realization of the Uniform Evaluation List in Kyushu

Masako AIURA Masafumi TAKAHAMA Kimiko ONO Tomomi TANIGAWA

【要 旨】

ミニマムスタンダードの策定をきっかけに、実習指導体制の見直しを行う。特に、実習施設と保育実習の意義についてどのように共通理解を図るかを検討した結果、養成校と実習施設との間を行き来する評価票の改定をもとに、実習及び学生に対する意識を共有し、実習施設との協働関係の構築に取り組んだ。方法として、改定評価票のアンケートを行い、その結果を伝え、実習施設と共に改善していく。さらに、大分県内における実習の質をより高めていくために、大分県内の養成校と統一評価票を作成することを決定した。

【キーワード】

保育所実習 統一評価票 保育の質的向上

1. はじめに

2001年、保育士の資格が名称独占を伴う国家資格となり専門職化された中で、保育士養成課程において学生がその専門性を実感する実習は、もっとも中心的な教科目であることは言うまでもない。そのような実習に関する研究は、これまでに、社団法人全国保育士養成協議会専門委員会（以下「専門委員会」）において課題研究として取り組まれてきた。これらの研究結果を整理・分析したうえで保育実習指導におけるミニマムスタンダードが提案され、各保育士養成校や全国保育士養成協議会の各ブロック等において、実習指導において新たな取り組みがなされてきた。

2003年12月9日に厚生労働省雇用均等・児童

家庭局長名による「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の通知の中で、「保育実習実施基準」において追加された主な事項は、①守秘義務の遵守についての指導の徹底 ②総合的な実習を可能とする実習保育所の選定 ③実習施設への訪問・指導の徹底、もしくは同等の体制整備 ④実習期間中の指導内容の記録化である。これらを整理すると、養成校における課題と養成校と実習施設との関連における問題とに分けられよう。特に、③は、養成課程に関わる教員間において、実習指導内容の共通理解を図る組織的な体制が必要となる。養成校所属の教員といえども、その専門性によっては、実習指導に対する理解の温度差があるのは否めないが、FD等の工夫により無理なことではない。

しかしながら、④になると、実習施設の実習

指導者に対して、「毎日、実習の記録の確認及び指導内容を記述する」ことを依頼することなど容易なことではない。なぜなら、各養成校にとって実習の依頼は、実習施設の確保と同時に就職先の確保という現実的な問題を抱えているからである。明らかに実習施設側の負担になる指導内容を、局長通知といえども依頼はし難いのである。そのため、これまでは養成校独自の実習指導を行い、実習施設側も独自の受け入れ方針と指導方法によって現場実習指導を行ってきたのである。このように、養成校単独では解決し難い課題に対しては、ローカルな枠組みを超えた制度的・組織的なモデル、つまり、ミニマムスタンダードの存在によって、閉塞的な状況の打開ができるのである。

ミニマムスタンダード策定の目的として、2点挙げられている。まず一つ目としては、実習指導の「標準的な事項」の共有による養成教育の自己点検・評価である。局長通知には、「教科目の教授内容」が示されているが、その内容は決して詳細なものではない。このことは、養成校および実習担当者の独自性にゆだねられていると言っても過言ではない。このような状況は、社会の多様な変化に伴う保育士の専門性の広域化に対応出来得るのであろうか。また、学生の背景も大きく変化しており、従来の指導体制では十分な対応ができるとは言い難く、見直しが必要となっているのである。

次に、実習施設における実習指導職員との理念の共有である。従来、養成校と実習施設との間には、実習指導における標準的事項を共有する関係性は希薄であった。当然、個別の関係において努力を重ねている事例もある。しかし、個別的事例では限界があり、両者が実習及び実習指導に対する理念を共有するためには、組織的な標準的事項が必要となってくるのである。

2. 九州の動き

九州においての動きとしては、2010年の九州ブロックセミナー沖縄大会の分科会において、実習評価票の統一から保育士養成校と実習現

場、養成校同士との協働的關係の構築を図ることを目的として、九州統一評価票の試案が「保育実習研究プロジェクト」委員会より示された。10数校の養成校が、九州統一評価票に関心を持ち、統一評価票に対して理念的な賛同は得られた。しかし、現実至今已までの評価票から大幅な改定には抵抗があり、試案の実用は3校ほどであった。

3. 本学の取り組み

「保育実習研究プロジェクト」委員会から示された評価票の試案を、2011年2月の保育所実習Ⅰ（1年次）と2011年8月の保育所実習Ⅱ（2年次）にて使用した。その際、改定評価票のつけやすさについてのアンケートを依頼し、その集計結果を、2012年3月におこなった本学独自の実習連絡会にて報告した。実習連絡会への参加園数は、実際の実習園112園に対し22園であった。そのため、2012年5月に、8月の実習依頼書の送付時に同封し、アンケート協力園への結果の伝達を確実に行った。

4. アンケート結果と考察

(1) 調査期間

平成22年度入学生の保育実習から実施した。
保育所実習Ⅰ…平成23年2月14日～25日
保育所実習Ⅱ…平成23年8月1日～11日、8月16日～27日

(2) 調査方法

評価票の項目と同じ項目について、記入のしやすさについての3段階評価と自由記述との二通り記入のアンケートである。回収は、評価票と共に返送してもらった。

実習所（園）数は、保育所実習Ⅰ、保育所実習Ⅱ共に108所（園）である。

(3) 3段階評価について

まずは表1における統一評価票の“つけやすさ”を3段階評価で見た場合の結果として「態

表1 「保育所実習Ⅰ統一評価票」についてのアンケート結果（回答数131）

項目	評価の内容	つけやすい	どちらでもない	つけにくい	未記入
態 度	意欲・積極性	105 (80%)	15 (11%)	7 (5%)	4 (3%)
	責任感	95 (72%)	24 (18%)	8 (6%)	4 (3%)
	探究心	93 (71%)	27 (20%)	7 (5%)	4 (3%)
	健康管理	104 (79%)	17 (13%)	6 (5%)	4 (3%)
知 識 ・ 技 術	基本的な保育所の役割と機能	35 (27%)	66 (50%)	23 (18%)	7 (5%)
	基本的な子ども理解	68 (52%)	41 (31%)	16 (12%)	6 (5%)
	基本的な保育内容・保健環境	37 (28%)	55 (42%)	33 (25%)	6 (5%)
	保育の計画、観察、記録すること の実際とその意味	39 (30%)	52 (40%)	35 (27%)	5 (4%)
	保育士の役割と職業倫理	35 (27%)	42 (32%)	47 (36%)	7 (5%)

※実習所（園）108のうち、1所（園）より複数回答により回答総数131

表2 「保育所実習Ⅱ統一評価票」についてのアンケート結果（回答数116）

項目	評価の内容	つけやすい	どちらでもない	つけにくい	未記入
態 度	意欲・積極性	92 (79%)	16 (13%)	2 (1%)	6 (5%)
	責任感	91 (78%)	15 (12%)	4 (6%)	6 (5%)
	探究心	86 (74%)	23 (19%)	1 (0%)	6 (5%)
	協調性	77 (66%)	28 (24%)	4 (3%)	7 (6%)
	健康管理	87 (75%)	19 (16%)	4 (3%)	6 (5%)
知 識 ・ 技 術	保育所の役割や機能の具体的展開	26 (27%)	44 (50%)	42 (18%)	4 (3%)
	観察に基づく保育理解	30 (25%)	51 (43%)	29 (25%)	6 (5%)
	保護者・家庭との連携	19 (16%)	43 (37%)	47 (40%)	7 (6%)
	指導計画の作成	62 (53%)	40 (45%)	11 (9%)	3 (2%)
	保育士の役割と倫理観	23 (19%)	53 (45%)	34 (29%)	6 (5%)
	自己課題の明確化	51 (43%)	45 (38%)	14 (12%)	6 (5%)

表3 「保育所実習Ⅰ統一評価票 自由記述による回答」

1. 【態度（4項目）に関する意見】

- ・ 観点があるので書きやすい。
- ・ 目に見える事なのでつけやすい。
(意欲・積極性に関する意見)
- ・ 「探究心」の項目と重複する。
(責任感に関する意見)
- ・ 実習生としての責任感とはどこまでわかりづらい。
(探究心に関する意見)
- ・ 何をもって評価するのが難しい。
(健康管理(本学独自項目)に関する意見)

※特記事項なし

2. 【知識・技術（5項目）に関する意見】

- ・ 保育実習Ⅰの内容としては少し高度だと思う。(多数)
- ・ すべてにおいて難しく、記入するのが大変。
- ・ 初めての实習では評価しにくい項目。(多数)
(基本的な保育所の役割と機能に関する意見)
- ・ 指針と保育の展開の関連についての理解を実習ではかるのは難しい。(多数)
- ・ どの程度の理解を求めているのかが分かりづらい。
(基本的な子ども理解に関する意見)

※特記事項なし

- (基本的な保育内容・保育環境に関する意見)
- ・ 「理解できたか」の観点は分かりづらい。
- ・ 初めての实習ではなかなか評価することが難しい。
- ・ 保育内容と環境構成の実際についての理解の程度は実習期間内では評価できない。
(保育の計画、観察、記録することの実際とその意義に関する意見)
- ・ 養成校によって日誌の形式が違うので、指導に困る。
- ・ 意義となると保育実習Ⅰでは難しい。
(保育士の役割と職業倫理に関する意見)
- ・ 内容が具体的ではなく、実習では評価しづらい。
- ・ 添付されている観点では判断しづらい。
- ・ 実習生には理解しにくいのではないか。
- ・ 保育実習Ⅰでは難しい。

【その他、評価票全体に関する意見】

- ・ 各養成校の評価票が統一されていると、評価する側としてはしやすくなる。(多数)
- ・ 観点が示されていて評価しやすい。(複数)
- ・ 評価票を統一するのであれば、養成内容も統一すべきではないか。
- ・ 観点が深く、理解の度合いが評価しにくい。
- ・ 「理解できた」ではなく、「理解しようと努力していた」がよい。(多数)
- ・ 知識・技術も大切だが、態度や保育に対する意欲を中心にしたほうが良いのではないか。
(多数)
- ・ 養成校によって、実習の段階の違いがあり、評価しにくい。
- ・ 評価票のコメント欄が多いと大変。(多数)
- ・ 態度のところは書きやすいが、知識・技術は書きにくい。(多数)
- ・ 実習の実態と評価票の内容が一致しておらず、書きにくい。
- ・ 1年生には難しい内容。
- ・ 評価票に時間をかけるのは難しい。園側としては簡潔なものがよい。(複数)

表4 「保育所実習Ⅱ統一評価票 自由記述による回答」

1. 【態度（5項目）】に関する意見】

(意欲・積極性)

- ・意欲＝積極性ではない
- (責任感)
- ・「職員と強調して役割」実習生にはそこまでの行動は難しい。機会はほとんどない
- (探究心)
- ・園の捉え方次第で決まる気がする。
- (協調性)
- ・評価内容について実習生に求めることが難しいのではないか。
- ・以上児クラスは担任一人で他の職員と顔を合わせる時間があまりないので評価しづらい。
- ・探究心や責任感などの項目に含まれるのではないか。
- (健康管理)
- ・昼間の生活は分かりますが、当人に評価させた方がよい。
- ・評価しづらい。
- ・見て分かりにくい。
- (その他)
- ・態度全体は姿が見えるので評価しやすい。

2. 【知識・技術（6項目）に関する意見】

(保育所の役割や機能の具体的展開)

- ・実習生に対して求めるものとしては内容が高度すぎる。
- ・「保育指針」と関連して保育実践することは実習生には要求が高すぎる。
- ・保育所保育指針との保育展開などは内容が幅広く実習期間内で判断、評価することは難しい。
- ・難しい内容なので、実習生が理解したかの評価が難しい。
- (観察に基づく保育理解)
- ・実習生に対して求めるものとしては内容が高度すぎる。
- ・実習期間内の日誌や実習態度からは判断できない。
- (保護者・家庭との連携)
- ・実習生に対して求めるものとしては内容が高度すぎる。
- ・実習期間で保護者支援まで目を向け、理解することは難しい。
- ・家庭との連携や支援については、現場でのやりとりを見ているだけで理解できるか分かりにくい。
- (指導計画の作成)
- ・指導計画の立案や内容の検討に時間がかかっているので、理解までは難しいのでは。
- ・子どもにあった計画であったか、提出期限は守れたか、保育士の助言を素直に受け入れたかなど具体的に記入するほうが評価しやすい。
- (保育士の役割と倫理観)
- ・2週間では、職業倫理について理解するのは無理。
- ・倫理観をどう評価かしていいか分かりません。
- (自己課題の明確化)
- ・「成功体験とともに」とありますが、成功でなくてもよいと思います。
- (その他)
- ・働きながら理解していく事が多いので、実習生の段階では学習していても難しいと思う。
- ・専門性を求められるものであり、短期間で評価するのは難しい。

3. 【その他、評価票についての意見】

- ・別紙で評価上の観点を用意していただいているので評価しやすい。
- ・「知識・技術」の評価に関しては、実習生が主体となって保育を行う場も少なく評価が難しい。
- ・“理解ができた”という評価は、どの程度理解していれば“できた”といえるのか判断が難しい。
- ・評価上の観点を実習生自身が理解できているのかが疑問である。もっと知識と実践が結びつく学習を行ってくれると評価もしやすくなるのではないか。

度」の項目(保育所実習Ⅰは4項目)である「意欲・積極性」「責任感」「探究心」「健康管理」については、多少差はあるものの71~80%が“つけやすい”と回答している。同様に表2の保育所実習Ⅱにおける「態度」の項目(保育所実習Ⅱは5項目)においても66~79%と概ね“つけやすい”という見解が多く、“つけにくい”という意見については、表1、2共に1~6%と極めて低い。

これら「態度」の項目に対して、「知識・技術」の項目(保育所実習Ⅰは5項目、保育所実習Ⅱは6項目)に関しては、つけやすいという回答の割合は表1、2共にかなり低くなっている。細かく見ていくと、表1の「保育士の役割と職業倫理」では“つけにくい”という回答が36%、表2の保育所実習Ⅱにおける「保護者・家庭との連携」の項目においては40%にも及んでいる。わずか11日間の短期間での実習において、実習生としての目に見える「態度」については評価しやすいものの、「知識・技術」がどこまで習得出来たのかを評価する場合に、どういう視点で見ていくのが焦点となっている。

今回の保育所実習Ⅰ、Ⅱの統一評価票には『評価上の観点』というものを提示して、各評価の内容を見る観点として、それぞれ項目数に違いはあるが、評価をする上での基準としてもらっている。これらを踏まえて、具体的に単なる3段階評価での結果だけではなく、自由記述欄を設け、より具体的な意見を徴収した。

(4) 自由記述の回答について

今回のアンケートの自由記述欄(表3)には、【態度(4項目)に関する意見】として「観点があるので、書きやすい」「目に見えることなのでつけやすい」といった意見の一方で、「実習生としての責任感がどこまでかわかりづらい」「何をもって評価するのが難しい」といった意見もあった。3段階評価においてはつけやすいという結果が多かったものの、具体的にみていくとやはり評価する上での課題もある。

一方、【知識・技術(5項目)に関する意見】としては、「保育実習Ⅰの内容としては少し高

度だと思う。」といったミニマムスタンダードに提示されているものと学生の実態とのズレを現場サイドも実感していることになる。さらに「初めての实習では評価しにくい」との意見もある。逆の視点から見るとミニマムスタンダードとして求められている実習の成果自体が現状と乖離しているともとれる。

その他の意見としては、『理解できた』ではなく、『理解しようと努力していた』がよい』といった表現方法を少し修正することで評価しやすくなるといった意見がある一方で、「各養成校の評価票が統一されていると、評価する側としてはしやすくなる」「評価票を統一するのであれば、養成内容も統一すべきではないか」「養成校によって、実習の段階の違いがあり、評価しにくい」といった複数の養成校から実習を受け入れていることに関する課題が浮き彫りになっている。この課題に関しては、一養成校だけでは解決出来る問題ではないため、今後の取組として、養成校間の連携が必要となる。また、「評価票のコメント欄が多いと大変」「評価票に時間をかけるのは難しい。園側としては簡潔なものがよい」といった本来の保育業務以外にも雑務に追われる保育所側の課題も露呈しているかのように思われる。実習施設として、次世代育成支援としての実習、保育の質的向上につなげていくための実習であるという認識を高めていく努力も必要となる。

また、表4の「保育所実習Ⅱ統一評価票の自由記述」の中には、保育所実習Ⅰ同様、どの項目においても「評価内容について実習生に求めることが難しいのではないか。」といった学生の実態に関する意見もある。その一方で「園の捉え方次第で決まる気がする。」といった受け入れる園の指導によるといったコメントも見られる。このことから実習園が保育士養成課程における実習の「教科目の教授内容」について全く認知していないことがうかがわれる。

また、「保育所保育指針との保育展開などは内容が幅広く実習期間内で判断、評価することは難しい。」「2週間では、職業倫理について理解するのは無理。」といった実習期間の課題な

ども挙がっている。

その他にある保育士の職務は「働きながら理解していく事が多いので、実習生の段階では学習していても難しいと思う」とあるように「理解する」という内容について「学生レベルでの理解度」に合わせた表現に変えることが望ましい。

こうした現状に対して、養成校と保育所が協働的により質の高い保育士養成を行っていくことを目的として、検討がなされている「統一評価票」であるため、今後も細かな考察、検討を重ねていく必要がある。さらに、養成校として学生の実態を十分に考慮した上で、今回の統一評価票において求められている実習内容と学生の実態との相違点について、今後の実習指導において、その取組を検討する必要がある。今回の評価票は、全国保育士養成協議会専門委員会から示された評価票をひな型として使用したが、評価項目の検討もする必要がある。そのためにも、養成校として、実習所（園）に対しても、評価票をひとつの媒介として、実習に関する共通理解をより深める機会をもちたいと考える。

5. 課題と今後の予定

統一評価票の検証をこれらのアンケート結果を元に行なった上で、評価の観点の再検討を本校独自で行わず、大分県下、保育士養成を行っている別府溝部短期大学、東九州短期大学と共に、3校で今回実施した統一評価票の形式、評価の観点等を中心として、検討会議を開き、更なる大分県としての取組として動き出している。これまで各養成校で使われてきたスクールスタンダードの評価票と統一評価票の差異をどのようにすりあわせていくかということや、養成指導内容にも関連してくることもあり、各養成校での共通理解を構築していくことに時間はかかるが、質の高い実習の実現と共に、質の高い保育士養成に繋げていくことが、求められている。

今後、3校での協議を重ね、統一評価票の改

訂を行い、大分県下の保育所（園）での実習においては、3校すべて同一の統一評価票を使用することによって、保育現場と養成校の協働的取組を行い、改訂した評価票をひとつの契機として、実習の充実を図ることを目的として、再度、アンケート調査を行い、再検証を行う。

謝辞

今回、二度にわたって、統一評価票に関して、ご意見を頂いた108所（園）の先生方にこの場をかりて、感謝の意を表すと共に、今後、益々の保育士養成の質的向上にご理解、ご協力頂けますようお願い申し上げます。

主要参考文献・資料

- ・全国保育士養成協議会編『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房 2007
- ・全国保育士養成協議会「保育士養成課程と関連する専門職養成課程の比較研究」『保育士養成資料第31号』2000年10月19日
- ・全国保育士養成協議会「効果的な保育実習のあり方に関する研究Ⅰ」『保育士養成資料第36号』2002年9月18日
- ・全国保育士養成協議会「効果的な保育実習のあり方に関する研究Ⅱ」『保育士養成資料第40号』2004年10月20日
- ・全国保育士養成協議会「効果的な保育実習の在り方に関する研究Ⅲ」『保育士養成資料第43号』2005年